



伊能忠敬

1745-1818

INOO-tadataka

I NOO-tadataka

1745-1818



世界に誇る近代日本地図創成の父



Editors: Iimoto-n.
 Hoyanagi-m.
Watanabe-a.Sugai-s.
Murakosi-t.Ikeda-m.
Yazawa-d. Sawata-h.
Nakano-t.

Layout : Sawata-h.
Printing: Otsuka-
 kogeisha, tokyo

TOKYO GEOGRAPHICAL SOCIETY

Tokyo, Japan, 1961

社団法人 東京地学協会 1961

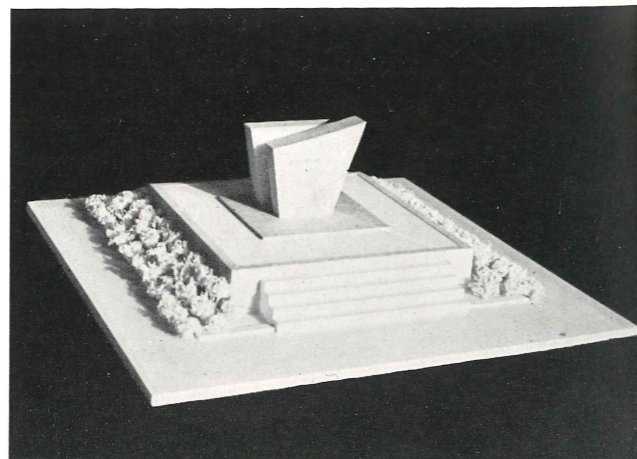
伊能忠敬略年譜

- 1745 上総国山辺郡小関村に生れる
- 1800 蝦夷南東海岸，奥州街道測量
- 1801 伊豆～陸奥の本州東海岸，奥州街道
- 1802 陸奥～越後海岸，出羽・越後街道
- 1803 駿河～尾張・越前～越後海岸，尾張～越前・越後享泊～高崎間街道，佐渡等
- 1805 東海街道筋，伊勢～紀伊～備前海岸，淀川筋，琵琶湖畔
- 1806 備中以西山陽海岸・諸島嶼，山陰・若狭海岸，隠岐等
- 1808 気賀街道，四国・淡路海岸，大和・伊勢街道等
- 1809 中山道・山陽道街道筋
- 1810 豊前・豊後・日向・大隅・薩摩・肥後海岸，天草諸島，熊本～大分間街道等
- 1811 中国諸街道，三河～信濃間街道，甲州街道等，相模・甲斐・駿河小街道
- 1812 筑前・筑後・肥前一部海岸，種子島，屋久島，九州諸街道
- 1813 九州残部海岸・街道，宅岐，対馬，五島，中国残部諸街道
- 1814 近畿主要街道残部，美濃・飛騨・信濃の二三の街道等
- 1815 江戸府内街道筋，部下の測量派出隊により伊豆地方
- 1816 測量派出隊により箱根芦ノ湖，富士裾野，相模・武蔵諸街道，荒川筋
- 1818 八丁堀の宅で死去
- 1821 大日本沿海輿地全図と輿地実測録を完成
- 1889 東京地学協会，東京芝公園円山に伊能忠敬先生測地遺功表を建立

測量



再建碑模型 ▶



1961

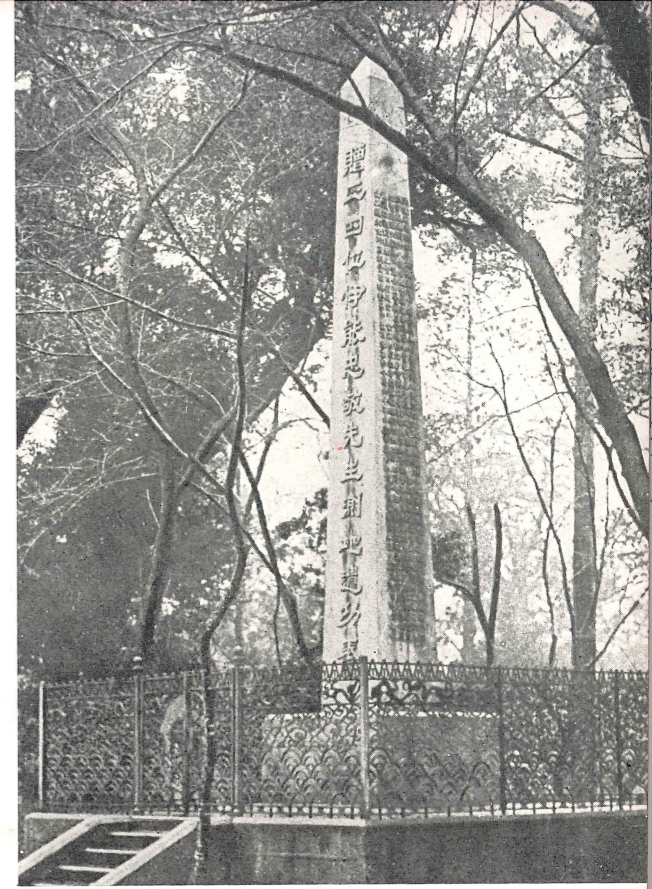
第一次伊能忠敬先生遺功表設立出願者

京橋区西紺屋町十九番地
東京地学協会々員 総代

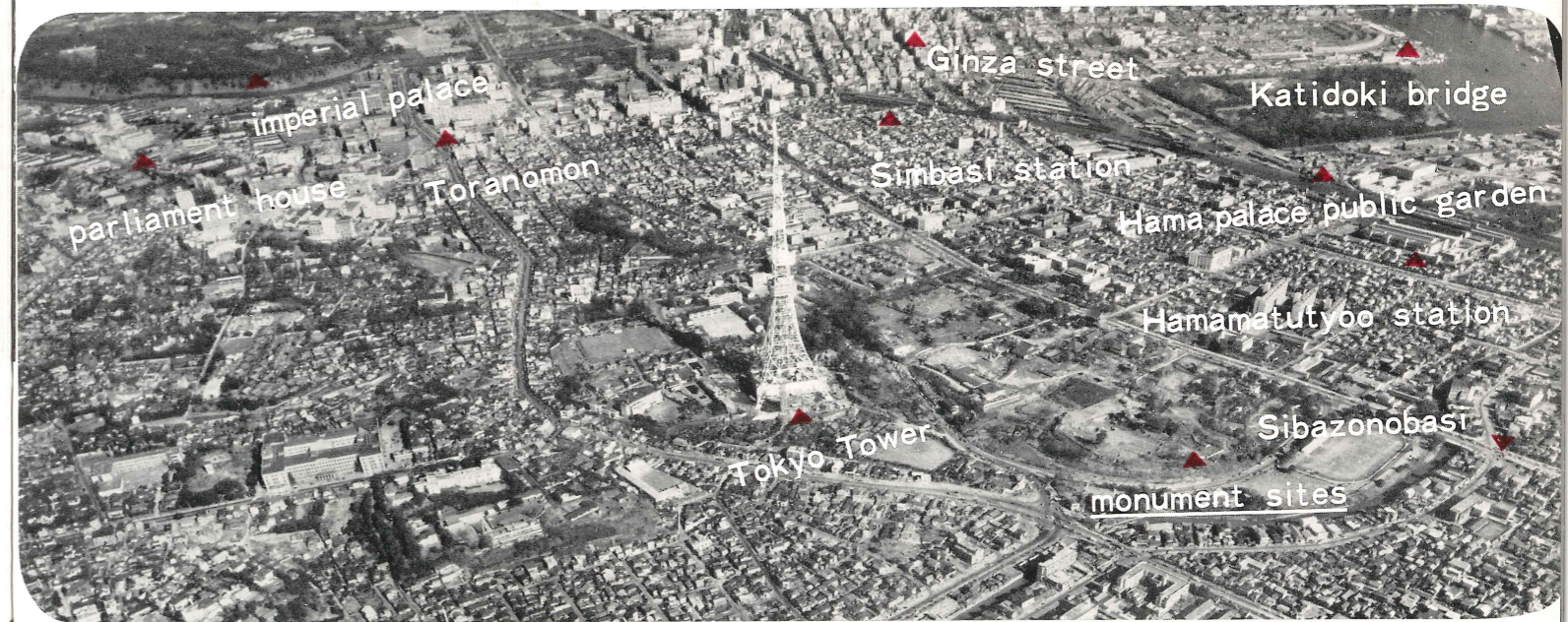
渡辺 洪基 大鳥 圭介
大倉 喜八郎 福地 源一郎
渋谷 栄一

1887(明治20)年 6月30日出願
同 年 8月17日許可
1889(明治22)年 12月14日完成

贈正四位伊能忠敬先生測地遺功表 ▶
芝公園円山にあったもの



1889



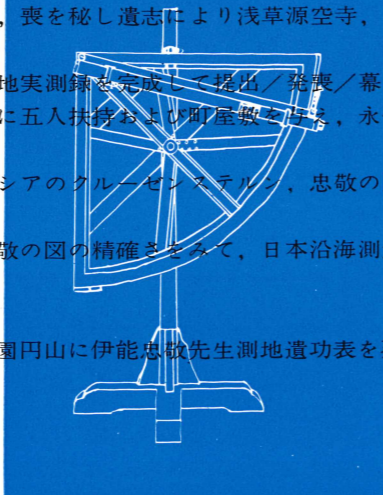
伊能忠敬記念碑再建世話人

青木均	一	東 龍太郎	足 立 正	安 西 正	夫
安藤豊	禄	石 川 一郎	植 村 甲午郎	大 林 芳	郎
兼子勝	等	岸 道 三	久留島秀三郎	小 島 新	一
柴田等	二	渋谷敬三	菅 礼之助	鈴 木 清	秀
十河信	好	塚本裕四郎	辻 村 太郎	德 川 宗	敬
西松三	彦	原 安三郎	水 田 三喜男	宮 地	司
武藤勝		和 達 清夫			



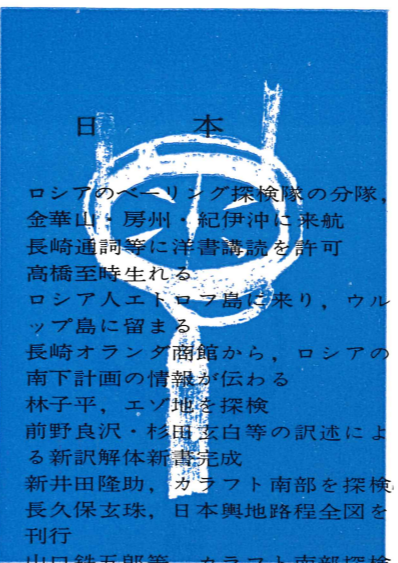
伊能忠敬略歴

- 1745 (延享 二) 上総国山辺郡小関村に生れる
1757 (宝暦 七) このころ常陸某寺の僧について数学を修得
1761 (同 一一) このころ常陸土浦の医某の許に寄食し、経学方医を学ぶ
1765 (寛政 七) 江戸深川黒江町に住む／高橋至時の門に入る
1797 (同 九) 白昼、金星の南中を観測
1800 (同 一二) 蝦夷南東海岸および奥州街道を略測し、その地図を幕府に提出
1801 (享和 元) 伊豆から陸奥までの本州東海岸および奥州街道を実測
1802 (同 二) 前年の測量地域地図を完成して提出／陸奥～越後海岸、出羽・越後両街道を測量
1803 (同 三) 前年の測量地域地図草稿を幕府当事者に供覧／駿河～尾張、越前～越後の海岸、尾張～越前、越後寺泊～高崎間の街道、佐渡等を測量
1804 (文化 元) 尾張と越前以東沿海実測図を完成し提出／西国一円海辺測量を受命
1805 (同 二) 江戸発、東海街道筋、伊勢～紀伊～備前の海岸、淀川筋、琵琶湖畔等を測量、岡山に越年
1806 (同 三) 備中以西山陽海岸・諸島嶼、山陰・若狭海岸、隠岐等を測量、江戸に帰る
1807 (同 四) 文化二年および三年に測量した地域の地図を完成して提出
1808 (同 五) 江戸発、気賀街道、四国・淡路の海岸、大和・伊勢街道等を測量、伊勢山田に越年
1809 (同 六) 江戸に帰る／前年の測量地域地図を完成して提出／日本輿地全図仮製／江戸発、中山道・山陽道の街道筋を測量、豊前小倉に越年
1810 (同 七) 豊前、豊後、日向、大隅、薩摩、肥後の海岸、天草諸島・熊本～大分間の街道等を実測、豊後大分に越年
1811 (同 八) 中国諸街道、三河～信濃間の街道、甲州街道等を測量、江戸に帰る／文化六年以降の測量地域地図を完成して提出／江戸発、相模・甲斐・駿河の小街道を実測／摂津郡山駅で越年
1812 (同 九) 筑前・筑後・肥前一部の海岸、種子島、屋久島、九州諸街道を測量／肥前賤津浦で越年
1813 (同 一〇) 九州残部の海岸・街道、沓岐、対馬、五島、中国残部諸街道を実測／姫路で越年
1814 (同 一一) 近畿主要街道の残部、美濃・飛騨・信濃の二三の街道等を測り、江戸に帰る／八丁堀亀島町に転宅
1815 (同 一二) 江戸府内街道筋を測量／このころ九州地方残部の地図を完成／部下を派して伊豆地方を測らせる、この測量派出隊は下田街道、伊豆七島、伊豆東海岸等を実測して熱海で越年
1816 (同 一三) 測量派出隊は箱根芦ノ湖、富士裾野、相模、武蔵の諸街道、荒川筋等を測り、江戸に帰る／江戸府内を細測／このころ伊豆七島等の地図を完成／このころ仏国曆象編斥妄を著す
1817 (同 一四) 江戸府内地図を完成して提出
1818 (文政 元) 八丁堀亀島町の宅で死去、喪を秘し遺志により浅草源空寺、高橋至時の墓側に葬る
1821 (同 四) 大日本沿海輿地全図と輿地実測録を完成して提出／喪喪／幕府、忠敬の功を追賞、嫡孫忠誨に五人扶持および附屋敷を許す
1834 (天保 五) 当時の水路学の権威、ロシアのクルーゼンスタール、忠敬の図を賞讃
1861 (文久 元) イギリス測量船長は、忠敬の図の精確さを見て、日本沿海測量を中止
1883 (明治一六) 正四位追贈
1889 (同 二二) 東京地学協会、東京芝公園円山に伊能忠敬先生測地遺功表を建立



象限儀：緯度測定用

逆目小方位盤：測量用コムパス

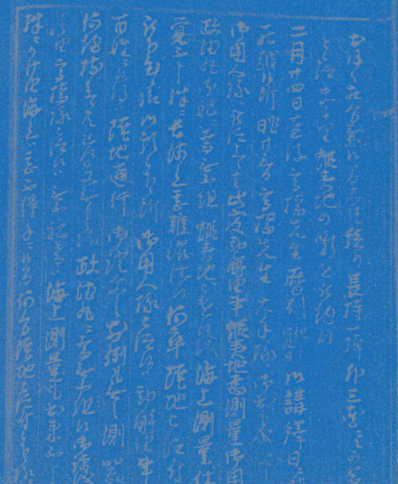
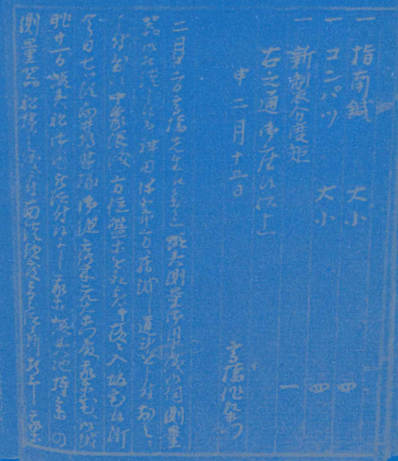


- 1739 ロシアのベーリング探検隊の分隊、金華山・房州、紀伊沖に来航
1745 長崎通詞等に洋書講読を許可
1764 高橋至時生れる
1766 ロシア人エトロフ島に來り、ウルップ島に留まる
1771 長崎オランダ商館から、ロシアの南下計画の情報が伝わる
1772 林子平、エゾ地を探検
1774 前野良沢・杉田玄白等の訳述による新訳解体新書完成
1777 新井田隆助、カラフト南部を探検
1778 長久保玄珠、日本輿地路程全図を刊行
1785 山口鉄五郎等、カラフト南部探検
1786 最上徳内、クナシリ島に至り、ロシア人を追う
1790 高橋寛光、カラフトを探検、西はコタントル、東はシレットコに至る
1791 林子平、海国兵談を著す
1792 最上徳内、カラフトを探検、西はクシュンナイ、東はトウブツに至る／司馬江漢、地球両半球図を出版
1793 渡辺華山生れる／林子平歿す
1795 高橋至時出府し、天文方となる
1798 幕府、エゾを巡検し、近藤守重、エトロフ島に渡航／志筑忠雄、星雲説に類する説を出す
1799 堀田仁助、本州東海岸およびエゾ南東海岸を略測したが未成功に終る／麻田妥彰歿す
1800 近藤守重、エトロフ島を開拓
1801 中村意積・高橋一貫等、カラフトを探検、東はナイブツ、西はシヤウヤに至る／本多利明、エゾ根室に航す
1802 6月、間重富、日食観測のため長崎へ行き、途中山陽道を実測
1803 間重富、幕府の後援で関西地方の測量を試みたが果さず
1804 高橋至時歿す
1806 ロシア軍艦、カラフトのアニワ湾に上陸／大槻玄沢の北辺探事なるロシア軍艦、エトロフを侵し、さらにカラフト・リシリ島で略奪／近藤守重、リシリ島に至り、宗谷に出て、天塩・石狩の上流を踏査
1808 間宮倫宗(林蔵)、松田伝十郎とカラフトを探検し、ラッカに至り、単身再びカラフトへ行き越年／近藤守重、エゾ・エトロフ・クナシリ・カラフト南部の地図を作る
1809 間宮倫宗、カラフト西岸のナニヲに達し、カラフトが離島であることを確かめ、海峡を渡って東韃に航し、アレシに至り、カラフトを経て松前に帰る／高橋景保、万国全図および日本辺界略図を作る
1811 間宮倫宗、江戸で忠敬につき緯度実測法を習得し、エゾ地に向う／佐久間象山生れる

海外

- 1742 曆象考成後編完成
1747 Bradley：章動(Nutation - 地軸の振動-)を発見
1749 Laplace：フランスに生れる
1764 本年から1768年にわたり、MasonおよびDixonは北アメリカでほぼ子午線に沿い、約1度半の長さを測縄で実測し、度法を算定
1765 Watt：蒸気機関を改善
1769 Napoleon：生れる
1772 Cook：南極地方の大陸探検のために出発、南水洋を周航して、1775年イギリスに帰着
1776 Cook：太平洋および北アメリカ北西海岸探検のために出発／北アメリカ合衆国、独立宣言
1779 Cook：ハワイで殺される
1783 イギリスでRoyの指揮のもとに三角測量を開始
1787 La Perouse：アジアの東岸に沿って北航、ダッタン海峡の南部に達し、宗谷海峡およびウルップ海峡を通過、このあたりの地形を探索
1792 フランスでメートルの基礎決定のため、DelambreおよびMéchainが主任となり、本年から精密な測量を開始
1796 Laplace：星雲説を提出
1799 Washington：歿す
1801 Bayernで三角測量を開始し、Münchenの基線を測定
1803 Svanberg：1801年から本年にわたりLapland測量を拡大補訂し、Peru測量と結合して
M.Q.=10,000,157m; α=1:310.3を得た
1804 Napoleon：フランス帝位につく
1805 Trafalgar 海戦
1808 フランスでメートル決定のための測量終了し、その結果をPeru測量の結果と結合し、地球の大きさをM.Q.=10,000,000m; α=1:334と定む
1812 Napoleon：Moscow から退却
1815 Napoleon：Waterlooに大敗、St. Helenaに幽閉される
1816 デンマークでSchumacherの指揮のもとに度法測量を開始
1818 Bohnenberger：Württembergの三角測量の指揮者となる
1819 Walbeck：ペルー、インド、フランス、イギリス、Lapland等における測量の結果を総合して
M.Q.=10,000,268m; α=1:302.78を算出
1820 Gauss：本年より1840年にわたりGöttingenおよびAltona間に度法測量を行う
1821 ロシアで本年から1831年にわたり、Struveの指揮のもとに、はじめに度法測量を行う／Napoleon：St. Helenaに歿す

測量日記



伊能忠敬の肖像

当時の水路学の世界的権威者
 Adam John KRUSENSTERNの伊能図に対する讃辞（1834）
 Ohne mich in eine genaue Analyse derselben einzulassen,
 will ich hier nur bemerken, dass nach einer Vergleichung
 mit unseren europäischen Karten, d.h. mit solchen, welche nach
 einer genauen Untersuchung von bekannten Seefahrern konstru-
 iert sind, ich nicht anders als sehr günstiges Urteil über sie
 fällen kann. Nicht nur die Konfiguration der Küsten und das
 Detail derselben, wo solches auf unsern Karten zu finden ist,
 sondern auf die Längen und Breiten stimmen auf eine wunde-
 rvolle Weise und liefern einen interessanten Beweis von den
 Fortschritten, welche die Japaner in der Astronomie gemacht
 haben.

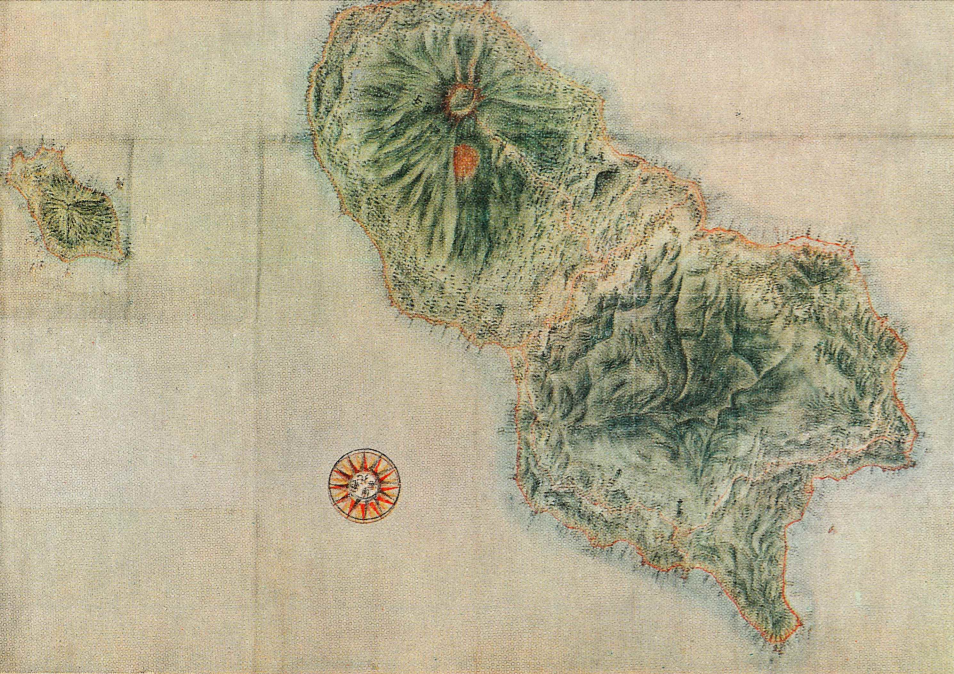
Bei dieser ausserordentlichen Genauigkeit, welche sich fast
 überall zeigt, wo ein Vergleich mit europäischen Seefahrern
 zulässig ist, lässt sich wohl mit Gewissheit annehmen, dass
 auch diejenigen Küsten, welche bis jetzt nicht haben von eu-
 ropäischen Seefahrern untersucht werden können, den nämlichen
 Grad der Genauigkeit gewähren, und das folglich die Lücken,
 deren es bis jetzt noch viele an jenen Küsten giebt, durch Ihre
 Karten genügend ausgefüllt werden können, bis endlich ein
 wissenschaftlicher Seefahrer dort das Werk vollendet, wozu dem
 Anscheine nach jetzt keine Aussicht ist. so wird man
 gewiss auch dort mit Ungeduld der Herausgabe Ihrer Karten
 entgegensehen. Es wäre daher sehr zu wünschen, dass dieses
 so bald als möglich geschehe.

緯度

地名	伊能忠敬測値	その後の測値
釧路	42° 58' 00"	42° 58' 08" (裏見町) 1892年水路部
東京	35° 40' 30" (深川黒江町)	35° 40' 17" (深川黒江町) 東京天文台の緯度から測地的に決定
名古屋	35° 10' 00" (玉屋町)	35° 09' 55" (駅前大通) 陸地測量部
大阪	34° 40' 00" (富田屋町)	34° 41' 21" (天守台) 地理局測量課
鹿児島	31° 36' 06" (車町)	31° 35' 40" (電信局) 1886年水路部

経度

地名	伊能忠敬測値	その後の測値
東京(大木戸)	139° 45' 54"	139° 44' 30" 陸地測量部
名古屋	136° 54' 12"	136° 54' 00" 陸地測量部
大阪	135° 29' 36"	135° 29' 18" 陸地測量部
鹿児島	130° 32' 54"	130° 33' 12" 水路部



▲伊能忠敬の八丈島（縮図）

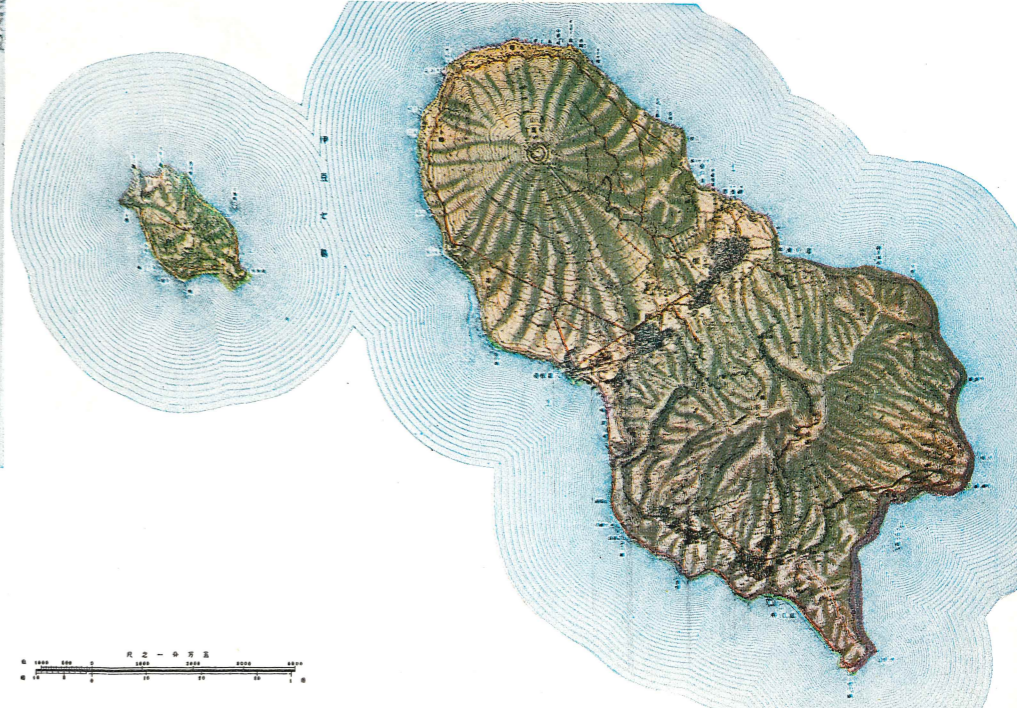
（クルーゼンステルン 讃辞邦訳）

これらの地図につき厳密な解析はしていないが、有名な航海家の精細な調査によって作られたヨーロッパ製の地図と比較してみると、非常によいという判断を下すはかない。われわれの地図のある地方について、両者を比べてみると、ただ海岸線の形や細部などがよく一致するばかりでなく、経緯度もおどろくほどよくあう。これは日本人の天文学上の知識の進歩を証明するよい例であろう。

これらの地図がヨーロッパ製航海図と比較できた地方において常にすこぶる正確なことを示したことから考えれば、ヨーロッパ人のまだ測定しない地方の海岸線もまた同様に正確なものと信用できる。従ってお送りの地図は、今のところは期待しがたい科学的な航海者の実測事業が将来完了するまで、これまでわがヨーロッパ製地図にかけていたこれらの沿海地方の多くの部分を、十分おぎなうにたるものと思う。世界の人人は貴地図（伊能忠敬の図）の出版を非常に望むものと思われるから、早くこれを刊行されることを希望する。



▼現在の八丈島5万分の1地形図（縮図）

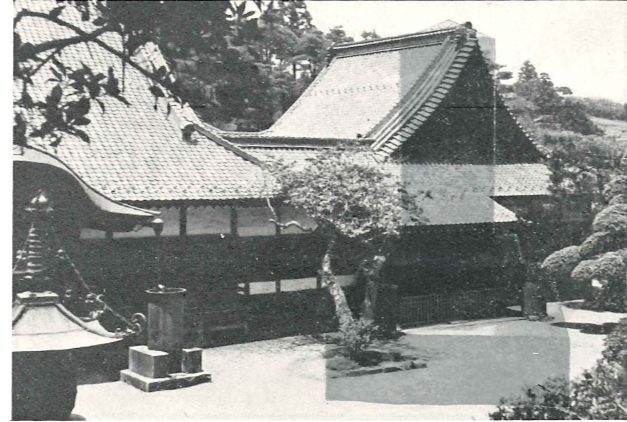


▲伊能忠敬による「日本国地理測量之図」（縮図）
 銀線は現在地図の海岸線





◀ 旧宅

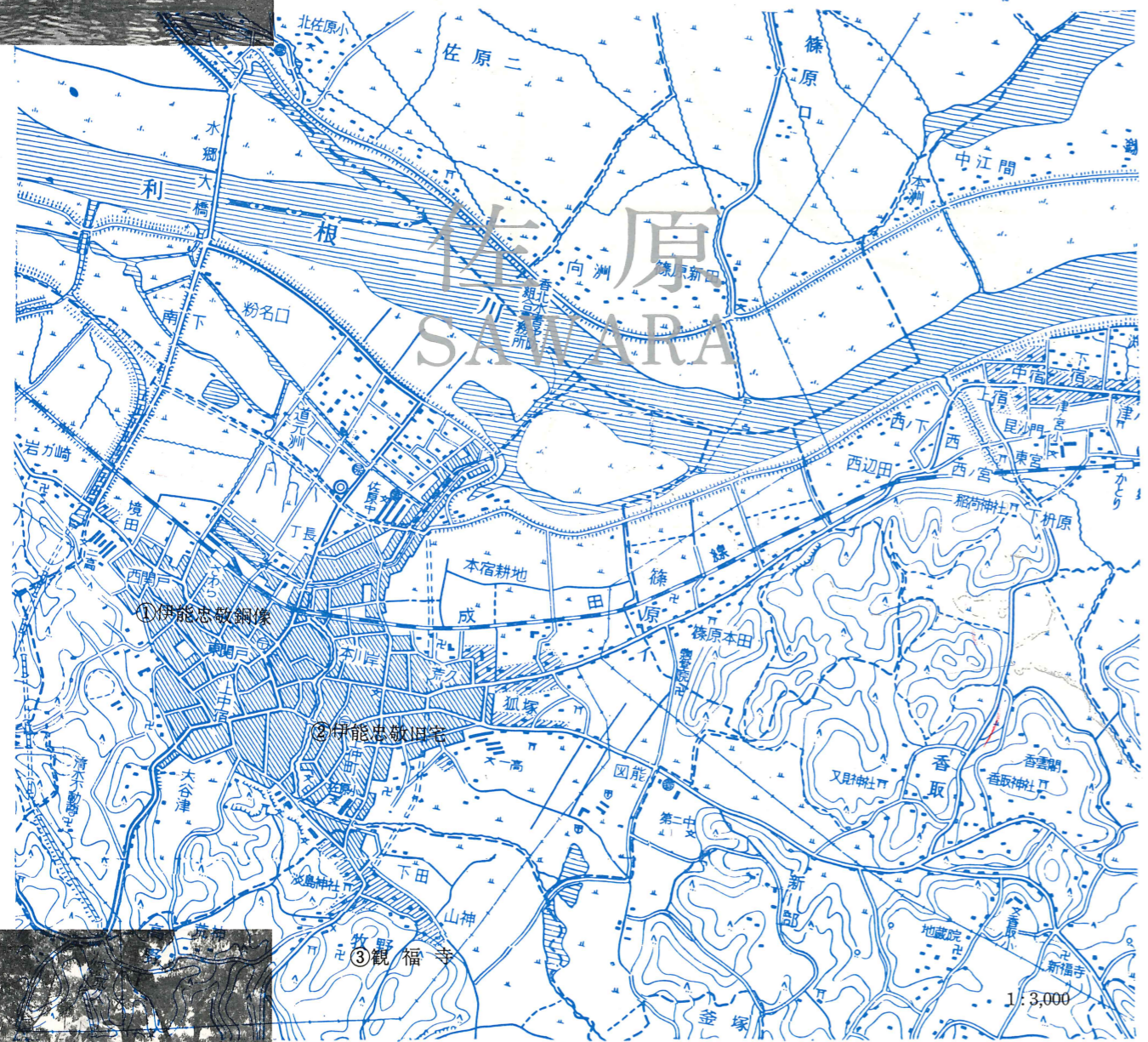


墓 ▶
観福寺



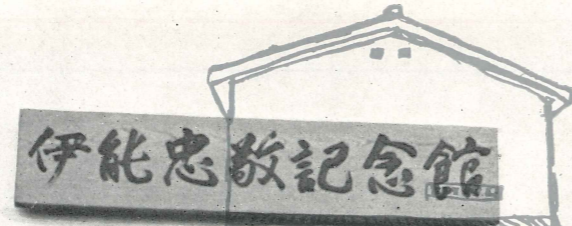
◀ 墓
浅草 源空寺

遺功表 ▶
芝公園円山



◀ 銅像
諏訪公園

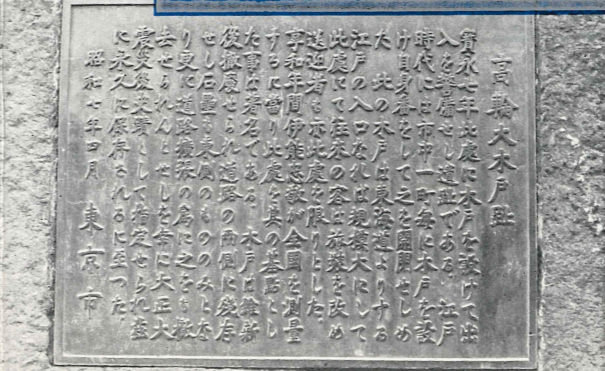
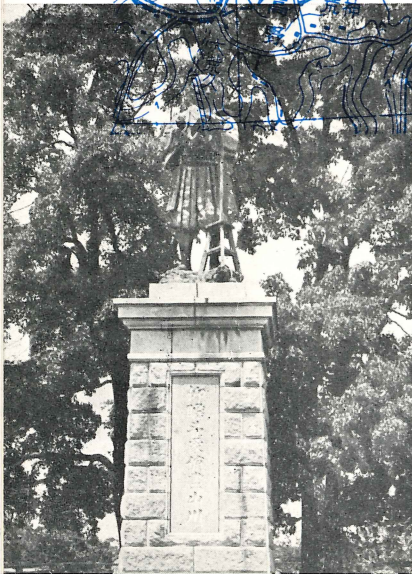
記念館 ▶
旧邸内



日本實測録卷一 沿海

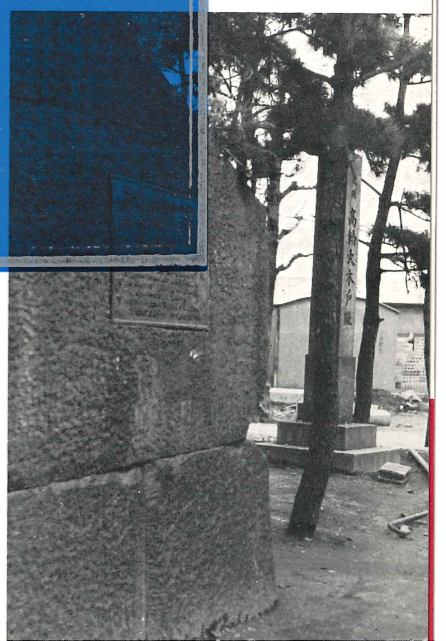
○從東京沿海至大坂、
武藏國、東京芝大木戸
四里一町二十四間 至大森村、一里三
里一町四十八間 至稻荷新田、一里六
里一町二十四間 至稻荷新田、一里六
里一町二十四間 至稻荷新田、一里六

伊能忠敬奉 命測定

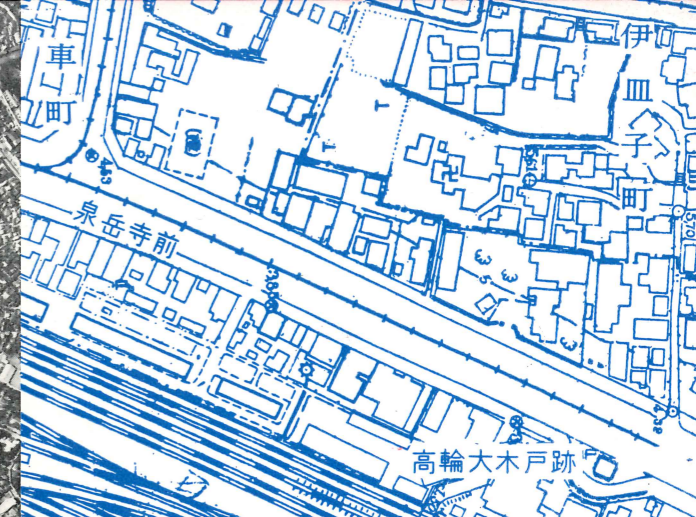


◀ 大木戸銘板

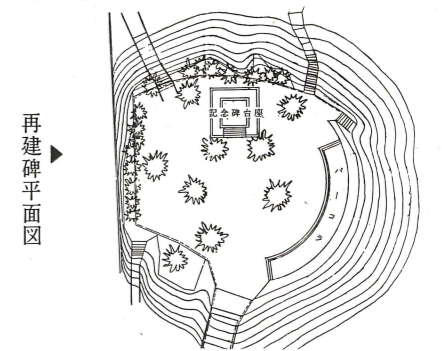
大木戸 ▶



- 1879 (明・12) 2月, 鍋島直大・長岡護美・渡辺洪基・桂太郎・北沢正誠の5氏首唱者となり, 北白川宮能久親王を社長として, 4月設立/スウェーデン北氷洋探検隊を率いて来朝した, O. Norden skjöld 博士の北氷洋航路発見の学術上の功績に対し銀メダルを贈る/地学協会報告を發行
- 1880 安南誌を編む
- 1882 ヴェニス万国地理学会から協会出品の報告書に対しMention Honorable 褒賞状を寄せられる
- 1883 伊能忠敬に対する贈位につき, 社長北白川宮能久親王名の請願書を1月提出, 2月, 正四位が贈られる/柳猶悦・荒井郁之助・桂太郎・品川弥次郎訳述のイギリス海軍士官視察指掌14編を刊行
- 1887 伊能忠敬測地遺功表を芝公園円山に建てる願書を東京府に提出, 聞届けられる
- 1889 伊能忠敬先生測地遺功表落成
- 1892 東京大学理学部および農商務省地質調査所関係者の設立した地学会と合同, 地学会が發行してきた地学雑誌を継承發行することになる
- 1893 福島安正のアジア大陸旅行記に対し銀メダル



- ▲大木戸位置図
- 1932 ソ連シビリヤコフ号船長と同学術部長Vize博士の北氷洋探検講演会を開催/1:4,000,000 南洋地質図・1:2,000,000 東亜地質図・1:10,000,000 東亜及南洋地質総図・日本地質産産誌を刊行
- 1936 山田邦彦博士の支那地質産産遺稿および地図を刊行
- 1939 南樺太地質図および説明書を刊行
- 1944 戦局変化のため地学雑誌発行は第667号で中止/9月23日伊能忠敬先生測地遺功表碑撤収式を東京都と共催
- 1945 5月, 会館戦災に遭い, 11月修理完了
- 1948 地学雑誌復刊
- 1949 日本産産誌刊行はじまる
- 1952 東亜地質産産誌刊行はじまる
- 1953 S.Hedin博士追悼講演会開催
- 1955 デンマークの世界周航船カラテア号の科学指導者A.F.Bruun氏来日に際し, 日本海洋学会・読売新聞社と歓迎講演会を共催
- 1956 スウェーデンのGöteborg 海洋研究所長, H.Petterson博士招待講演会を開き, 表彰状およびメダルを贈る
- 1957 国際地理学連合の会長H.W.Ahlmann, 副会長L.D.Stamp両氏に賞牌を贈る
- 1959 Humboldt百年祭を日本地理学会と共催/日本産産誌, 12分冊をもっておわる
- 1960 (昭・35) 地学教育に関する懇談会を開き, 高校地学教育の振興に貢献/アジア財団のR.Hall博士に銀メダルを贈る/2月伊能忠敬記念碑再建を決定/10月, 高輪大木戸に測量基点の標柱を建てることを決定



伊能忠敬先生測地遺功表 1889

同上 1946

同上 1960

- を贈る/間宮林蔵50年忌に際して贈位の件を宮内大臣に申請
- 1894 朝鮮全図を刊行
- 1895 遼東半島の地理・地質・博物学的調査
- 1896 北支那3省地図・小川琢治著台湾諸島誌・山吉盛儀編台湾諸島地図・阿部敬介著北アラスカ沿海見聞録を刊行
- 1899 南洋方面の地学的調査および朝鮮の地学・産業の調査依頼
- 1900 (明・33) パリ万国博覧会に協会刊行物等出品/中央太平洋学術探検船Albatross号横浜入港に際し, 日本動物学会と連合して, 隊長A.E.Agassiz博士に銅メダルを贈り, 本会名誉会員に推し, 講演会を開催
- 1903 第8回万国地理学会議に協会代表者名儀で加盟申込/パリ万国博覧会から協会の出品に対して贈られた銀メダル到着
- 1904 ルーマニア地学協会から創立25年祭典記念の銅メダルを贈られる/贈正五位間宮林蔵贈位奉告式と間宮林蔵遺物展覧会を催す/ワシントンで開催の第8回万国地理学会議に代表を送り, 論文提出
- 1905 寛政年間に樺太・北海道・千島を調査して功績のあった最上徳内の事蹟と, 生地山形県・第2の故郷青森県を調査
- 1907 樺太調査旅行を挙行
- 1908 第9回万国地理学会議に会員参列/中央アジア探検のスイスのS.Hedin博士を歓迎, 名誉会員に推し賞牌を贈り, 講演会を開催/樺太地誌・樺太地質概察図・韓国地質産産図を刊行/地学論叢を發行
- 1909 (明・42) ベルリン大学教授A.Penck博士の来朝に際し, 名誉会員に推し記念章を贈り, 「気候と地形」の題で講演会を開催/間宮林蔵東艦行100年祭に会長告文を朗読

- 1910 第11回万国地質学会議に井上主幹出席/小川琢治・浜田耕作等に清国地理調査を嘱託/石井八次郎を派遣し揚子江流域調査をはじめ
- 1911 幕末の探検家長久保赤水・古川古松軒・最上徳内・近藤重蔵の贈位記念講演会を開き, 遺物を陳列/有珠火山刊行
- 1913 朝鮮およびウラジオストック方面に学術旅行/揚子江流域を刊行
- 1914 英和对訳地学字彙初版を刊行
- 1915 揚子江流域および以南地域の調査をおわる
- 1917 中支那及南支那・支那地学調査報告第1巻および第2巻ならびに附図第1帙を刊行
- 1919 東部シベリア鉱物分布図を刊行
- 1920 南支那全図・南支那地質図を刊行
- 1921 支那地学調査報告第3巻および附図第2帙ならびに化石図譜を刊行
- 1923 北支那全図・北支那地質図刊行/関東大地震で会館全焼
- 1925 カイロで開催の万国地理学会議に代表出席
- 1926 細川護立, 会長となり今日におよぶ
- 1927 イタリアの北極飛行探検家U.Nobile少将の歓迎会を開催
- 1928 ロンドンで開催の万国地理学会議に代表出席
- 1929 東亜地質図を刊行
- 1930 (昭・5) ジャワで開催の第4回太平洋学術会議に代表出席, 東亜地質図見本を陳列/麴町下二番町の会館新築成る/P.H.C.Visser博士を招きカラコルム探検講演会を開催

資料提供者(敬称略): 鮎沢信太郎/伊能康之助/岩波書店/空花圭一/宮内庁書陵部/国土地理院/国会図書館/国際航業株式会社/佐原市/東京都/内閣文庫/日本学士院/パシフィック航空測量株式会社/文化財保護委員会